



「大きさについて」(測器)※部分 ©Kanji Wakae, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 若江 漢字 《視程》

会期：2016年5月13日(金) - 6月11日(土)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

オープニングレセプション：5月14日(土) 18:30 - 20:00

トークイベント：5月14日(土) 17:00 - 18:30

※若江漢字×沢山遼(美術批評)

2016年5月13日(金)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、若江漢字の個展《視程》を開催いたします。

写真の機能というのは世界を検証していく要素を持っているわけです。カメラは、1つのメジャー(定規)なのです。どうということかということ、実測し直すとか計り直す、つまり、事物を検証するということは世界を測定し直すことなのです。

—若江漢字「ユミコチバアソシエイツ刊『1970年代へ 写真と美術の転換期』(2013) 光田由里×植松奎二×若江漢字 スペシャルトークイベント」より

1960年代後半よりメディアに捕われぬ幅広い活動を続けている若江は、早くから「記号性」や「表示作用」といった、記録性だけではない写真の機能的な側面に着目し、現代美術の文脈上でそれを巧みに用いた作品を発表してきました。

撮影の対象となる事物そのものと写し出されたイメージを一枚の写真として並列することで虚像と実像の境界を探る作業や、被写体の大小のサイズを視覚上でコントロールする仕掛けは視覚認識のズレを生じさせ、観者に「見ること」の曖昧さを問いかけます。そうした作品を前にした時、私たちの視点は定まるところを失い、人間の持つ可視性がいかに脆弱であるかが暴かれるのです。

このような作品制作の背景には、固定化されている現実認識に対する懐疑を常に持ち、写真を通して「見る」という行為を検証し、いかに世界を測定し直すことができるのかという若江の一貫した態度が伺えます。

本会場では、事物と写真のイメージが併置され、空間そのものが作品となります。併置されているそれらは視覚的、意味的に相互に関連しあい、観者はその関係性を手がかりに作品を注視することで、普段何気なく見過ごしてしまう事物自体の「存在」についての思考を促されることでしょう。

尚、本展の開催に合わせ、若江漢字と美術批評家・沢山遼氏によるトークイベントを開催いたします。是非ともご参加ください。



## ■作家コメント

前回（2013年）の《鏡界》と題する写真と絵画の個展では、ミラーリンクー反転・鏡像化一似かよった図像が反転、並列するような写真作品と絵画から鏡の存在が暗示される一鏡にちなんだ作品類による混成の展示だったが、今回の《視程<sup>シテイ</sup>》では久々に写真作品のみの展示となる。

展示の中心となるフォトオブジェクト（写真と物の組合せ作品）『大きさについて』の初出は、1983年ドイツ滞在中（文化庁在外研修）に北ドイツ・ヴォルフスブルク市立美術館の『平和』展となるが、このとき出品したのが第一作で帰国後に東京国立近代美術館での『現代美術における写真』展のために担当学芸員から”この作品で”と指定されて出品した近美バージョンと合わせて二作がある。

そして今回、最初のアイデアであった測量器を被写体とした作品が3度目にしてようやく日の目を見ることとなった。個展タイトルの《視程》は、霧や靄<sup>モヤ</sup>の濃さの度合を観測する折の気象用語で、私はその言葉を作品を見る人の肉眼が目標に到達し、思考を誘発するその思惟の尺度といった意味合いで採用している。

『大きさについて』のコンセプトは、風景の中に球体を置いて撮影した、70年代初期からの『見る事と視える事』シリーズに連なるもので、物の大きさ、つまり大小を判断する基準が人それぞれの成長時に獲得された極めて個人的な体験に依拠するあいまいなものではないかとの思いが制作の動機となっている。

他の展示作品は、ヴァイオリンを使った『大きさについて』（ヴィオロン）と写真2枚を一組とした Black Box Camera シリーズの新作8～10点、80年代の旧作の再制作による水に関する設問としての作品から3点、球体シリーズから6点、その他3点程の24～5点の構成となっている。

写真は常に視る事の不思議をつきつけている。

若江漢字 2016年4月

## ■オープニングレセプション

日時：2016年5月14日（土）18:30-20:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

## ■トークイベント

オープニングレセプションに合わせて、沢山遼氏（美術批評）をゲストに迎え、トークイベントを開催いたします。

日時：2016年5月14日（土）17:00-18:30

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

登壇者：若江漢字 × 沢山遼（美術批評）

※事前申込制、参加費：無料

レオナルドやキルヒャーら多くの芸術家が覗いたであろう、その同じ闇の洞窟を私は覗く。カメラ・オブスクラを通してかつて巨匠たちが見た、見ようと欲したその同じ世界を私は見つける。今や世界は被写体と呼ばれ、その真理は闇の洞窟に閉じ込められている。

—若江漢字、美術手帖 1980年3月号「特集：美術に拠る写真、写真に拠る美術」より

## 沢山 遼 (Ryo Sawayama)

1982年生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。美術批評。主な論考に「差異と関係——ジョセフ・アルパースとブラック・マウンテン・カレッジの思想」（『ART TRACE PRESS 03』ART TRACE、2015年）、「限界経験と絵画の拘束——香月泰男のシベリア」（『ケリティカルアーカイヴ vol.2 前夜／前線』ユミコチバアソシエイツ、2014年）、「若江漢字—差異と遅延の部屋」（『若江漢字 境界—転覆と反転』ユミコチバアソシエイツ、2013）など。

## 【お申し込み方法】

件名「トークイベント参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、[event@ycassociates.co.jp](mailto:event@ycassociates.co.jp) までメールでお申し込みください。

\* 定員（20名）になり次第、受付を終了いたします。

\* ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。



## ■作家プロフィール

### 若江 漢字 (Kanji Wakae)

1944 神奈川県横須賀市生まれ  
1974「第9回東京国際版画ビエンナーレ」文部大臣賞受賞  
1982-83 文化庁芸術家在外研修員 (西ドイツ・ヴッパータール総合制大学)  
神奈川県在住

### <主な個展>

2015 解説された「大ガラス」展 デュシャン 100年の謎は解明された!! (カサヤの森現代美術館, 横須賀)  
2014 なぜ今スードなのか?! 絵画の主題: 裸婦 若江漢字 開館 20周年記念 (カサヤの森現代美術館, 横須賀)  
2013 鏡界-転覆と反転 (ユミコチバアソシエイツ ビューイングルーム, 新宿)  
2008 時の光の下に (ノイエス・クストフォーラム, ドイツ)  
2006 HIROSHIMA (カサヤの森現代美術館, 神奈川)  
2004-05 若江漢字 100年の時を待たずに (国際芸術センター青森, 青森)  
2004 今日の作家 IX 若江漢字 時の光の下に (神奈川県立近代美術館 鎌倉館, 神奈川)  
2001 千年紀-IV (コロンビア大学 リロイ・ニーマン版画センター, ニューヨーク)  
2001 千年紀-V (マサチューセッツ美術大学プレジデント・ギャラリー, ボストン)  
1995 Ethos (カサヤの森現代美術館, 神奈川)  
1994 写真版画作品と彫刻 (日本大使館広報文化センター, ワシントン D.C.)  
1991 Ethos (ルナミ画廊, 東京)  
1990 潮流-II (函・感・間) (INAX ギャラリー, 東京)  
1989 潮流-I (ヴッパータール市立美術館, ドイツ)  
1975 (ギャラリーm, 西ドイツ)  
1974, 72, 70 (村松画廊, 東京)  
1972, 71 (田村画廊, 東京)  
1968 (養清堂画廊, 東京)

### <主なグループ展>

2015 Paris Photo 2015 ユミコチバアソシエイツブース(グラン・パレ/パリ)  
2015 For a New World to Come: Experiments in Japanese Art and Photography, 1968-1979 (ヒューストン美術館/ヒューストン, Grey Art Gallery/ニューヨーク, Japan Society/ニューヨーク)  
2014 1974年一戦後日本美術の転換点(群馬県立近代美術館, 群馬)  
2014 いろ・うごき・かたち アートをめぐる夏の冒険(神奈川県立近代美術館 葉山, 神奈川)  
2014 Image And Matter In Japanese Photography From The 1970s, Curated By Yumiko Chiba (MARIANNE BOESKY GALLERY, ニューヨーク)  
2013 マンハッタンの太陽(栃木県立美術館, 栃木)  
2013 街の記憶 写真と現代美術でたどるヨコスカ(横須賀美術館, 神奈川)  
2011 横須賀・三浦半島の作家たち I 原口典之・若江漢字(横須賀美術館, 神奈川)  
2011 1970年代へー写真と美術の転換期(ユミコチバアソシエイツ ビューイングルーム シンジユク, 東京)  
1989 自立した写真・実験的映像 1839-1989 (ビーレフェルト・クストハレ, ドイツ)  
1989 第20回サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル)  
1983 現代美術における写真: 1970年代の美術を中心として(東京国立近代美術館, 東京/京都国立近代美術館, 京都)  
1980 まがいものの光景(国立国際美術館, 大阪)  
1977 1840年から今日までの絵画と写真の対話(チューリッヒ美術館, スイス)  
1976, 75, 70 今日の作家展(横浜市民ギャラリー, 神奈川)  
1974 第11回日本国際美術展(東京都美術館, 東京)  
1974 第9回東京国際版画ビエンナーレ(東京国立近代美術館, 東京/京都国立近代美術館, 京都)  
1973 第12回サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル)  
1972 第8回東京国際版画ビエンナーレ(東京国立近代美術館, 東京)  
1969 第9回現代日本美術展(東京都美術館, 東京)

### [パブリック・コレクション]

文部科学省、栃木県立美術館、神奈川県立近代美術館、東京都現代美術館、東京国立近代美術館、河口湖美術館、町田市立国際版画美術館、国際芸術センター青森、横須賀市美術館、国立国際美術館、カサヤの森現代美術館、クラクフ国立美術館(ポーランド)、ルーデンシャイド市立美術館(ドイツ)、ビーレフェルト・クストハレ(ドイツ)、フォン・デア・ハイト美術館(ドイツ)、ポンピドゥー・センター(フランス)

【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ 担当: 鈴木

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail]

info@ycassociates.co.jp [website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日